

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 水中音響リモートセンシングで駆動するアジア沿岸生態系の生態解明と環境影響評価
2. 研究代表者： 木村 里子（京都大学 東南アジア地域研究研究所 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、水中で発生する音を低周波から高周波まで広帯域に遠隔観測することで、小型鯨類スナメリやテッポウエビ等の生物が発する音、船等の人工騒音を抽出・解析するプラットフォームを構築し、スナメリの生態解明と人工騒音の環境影響評価を目指す研究である。フェーズ1では、データ収集が順調に進み、スナメリ鳴音抽出技術の開発では、精度の高い検出率でスナメリの鳴音を抽出できたことは評価できる。また、論文発表、口頭発表、各種アウトリーチ活動も活発に行われており研究が順調に進んでいると評価する。フェーズ2では、スナメリ以外の生物のプラットフォームを構築し、水中音から非侵襲で海洋生態系の健全性を把握するという壮大な目標をかかげているが、具体的な数値目標やマイルストンが不明瞭である。それらを明確にするためにも、研究計画書を見直し、必要となる複数種の生物個体の鳴音のプラットフォームを構築し、海洋生態系や人工騒音を把握できるよう研究に注力いただきたい。

以上